U.S. Indicators

発表日:2020 年 10 月 19 日(月)

米国　９月鉱工業生産は予想外の下振れ

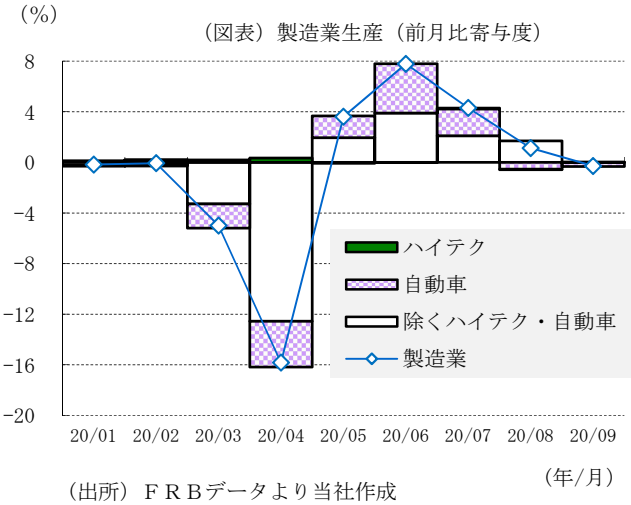
～生産活動の回復傾向は持続する見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト　桂畑　誠治(TEL:03-5221-5001)

９月の鉱工業生産は、前月比▲0.6%（８月同＋0.4%）と市場予想同＋0.5%に反して失速した。４－８月合計で 0.7%ｐ上方修正されたが、市場想定よりも弱い内容。鉱業が前月比＋1.7%（８月同▲2.4%）と拡大に転じた一方、公益が前月比▲5.6%（８月同▲1.0%）とマイナス幅を拡大したほか、製造業は前月比▲0.3%（８月同＋1.2%）と市場予想の同＋0.6%に反して縮小した。自動車が５、６、７月に急増した反動で調整した影響を受けた。４－８月合計で 0.6ｐ上方修正されたが、製造業の回復ペースも市場想定を下回っている。

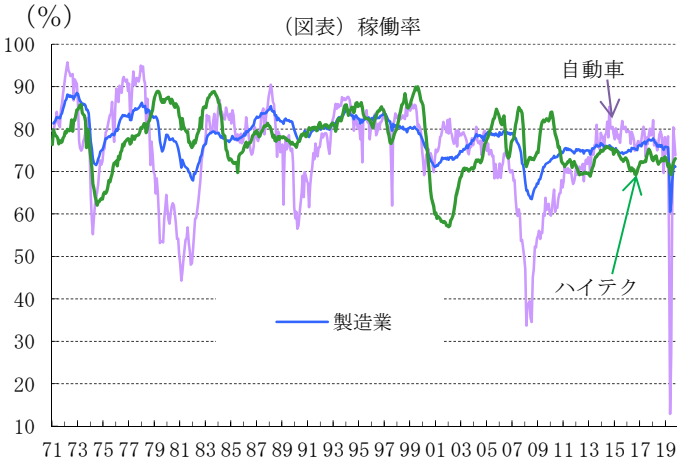
もっとも、自動車は販売回復が続く一方、在庫水準が低いことから再び増加する可能性が高い。また、３ヶ月移動平均・３ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が＋39.8%（前月＋20.5%）、製造業生産が＋53.7%（前月＋31.3%）とプラス幅を拡大しており、拡大モメンタムが強まっている。

鉱工業の設備稼働率は、71.5%（前月 72.0%）と低下し、市場予想 71.8%を下回った。また、製造業は 70.5%（前月 70.7%）と低下した。



（図表）製造業生産（前月比寄与度）

（出所）ＦＲＢデータより当社作成



（図表）稼働率

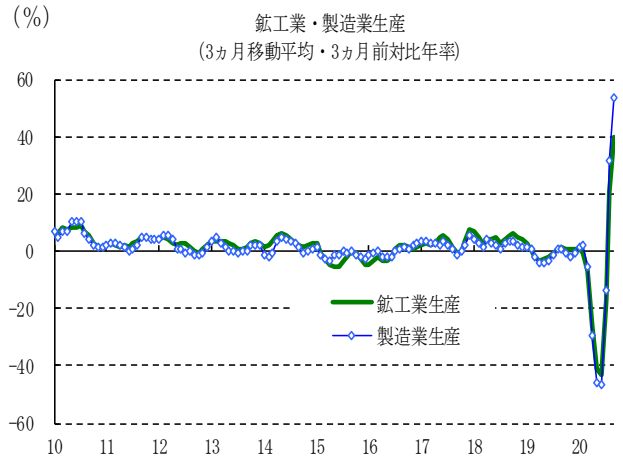
（出所）ＦＲＢ

鉱工業生産

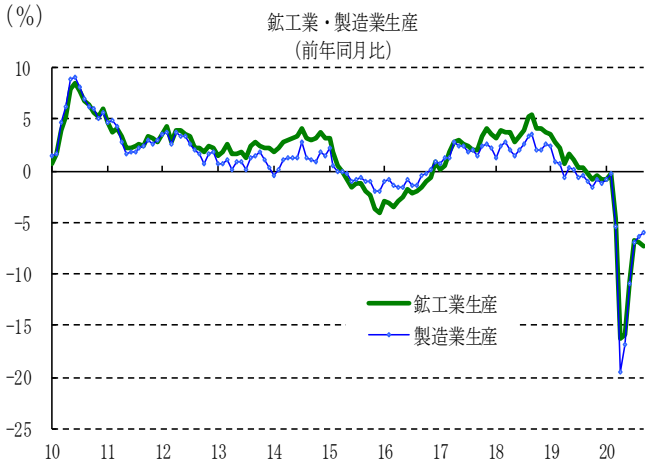
	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率 全産業	製造業 (SIC)	生産能力
20/01	▲0.4	(▲0.8)	▲0.1	＋1.0	▲4.7	▲0.6	▲0.1	＋2.2	＋76.9	＋75.2	▲0.0
20/02	＋0.1	(▲0.2)	▲0.0	▲1.6	＋3.6	▲1.4	＋0.1	＋3.3	＋76.9	＋75.2	＋0.0
20/03	▲4.4	(▲4.7)	▲5.0	▲1.7	▲3.1	＋1.3	▲5.0	▲29.2	＋73.6	＋71.4	＋0.0
20/04	▲12.7	(▲16.3)	▲15.8	▲6.8	＋1.8	▲2.3	▲15.8	▲76.7	＋64.2	＋60.1	▲0.0
20/05	＋0.7	(▲15.8)	＋3.6	▲11.3	▲0.6	▲0.5	＋3.5	＋110.0	＋64.7	＋62.2	▲0.0
20/06	＋6.2	(▲10.7)	＋7.6	＋2.4	＋1.4	＋2.4	＋7.4	＋123.6	＋68.7	＋67.0	▲0.0
20/07	＋4.2	(▲6.8)	＋4.2	＋3.7	＋4.9	＋2.2	＋4.2	＋33.0	＋71.6	＋69.8	▲0.0
20/08	＋0.4	(▲7.0)	＋1.2	▲2.4	▲1.0	＋1.3	＋1.1	▲4.3	＋72.0	＋70.7	▲0.0
20/09	▲0.6	(▲7.3)	▲0.3	＋1.7	▲5.6	＋0.8	▲0.1	▲4.0	＋71.5	＋70.5	▲0.0

(注)ｶｯｺ内は前年比

前月比で増加した業種は、航空宇宙・その他輸送機器幅が前月比＋4.6%と最大だった。次いで、繊維が＋4.5%、一次金属が＋1.7%、加工金属が＋1.7%、印刷・同サポートが＋1.3%、プラスチック・ゴムが＋0.7%となった。前年比で拡大した業種は、コンピューター・電子（＋1.7%）、自動車（＋0.4%）にとどまった。一方、前月比で減少した業種は、自動車が前月比▲4.0%と最も大幅な縮小だった。次いで、石油・石炭製品が▲3.5%、コンピューター・電子が▲2.6%、アパレル・皮革が▲2.1%、その他耐久財が▲1.9%、家具・同製品が▲1.0%と続いた。前年比で減少した業種は、大きい順にその他製造業が▲18.9%、一次金属が▲17.8%、石油・石炭製品が▲16.9%、航空宇宙・その他輸送機器が▲14.5%、印刷・同サポートが▲13.7%、アパレル・皮革が▲12.7%、家具・同製品が▲11.8%、電気設備・機器・同部品が▲10.3%と続いた。



(出所) ＦＲＢ



(出所) ＦＲＢ

米国の生産活動は、新型コロナウイルスのパンデミックを背景とした世界経済の縮小、サプライチェーンの毀損、工場での感染・感染防止、需要の減少を受けた操業停止の広がり、原油価格の急落による石油探査・掘削の減少によって、３、４月に過去に例のない落ち込みとなった。その後、４月末から５月 20 日までに全米 50 州で行動制限が緩和され、工場も再開されたこと等から、米国の生産活動は５、６、７、８月と４カ月連続で回復した。９月は減少したが、需要が回復するなかで在庫が不足しており、一時的な動きと判断される。ただし、新型コロナウイルスのパンデミックによって世界規模で経済活動制限が続いており、米国の生産活動は新型コロナウイルス危機前の水準を大幅に下回っている。

今後の生産活動は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための規制の段階的な緩和を受けた需要の回復により、前月比で拡大基調を維持すると予想される。ただし、新型コロナウイルスの安全な治療薬やワクチンの開発・生産には時間がかかるなか、新型コロナウイルスのパンデミックが続くこと、新型コロナウイルスの感染力が強いことから、ソーシャルディスタンスを考慮した対応を続ける必要がある。このため、長期間に亘って経済活動は制約を受けるとみられ、生産活動の回復も抑制される公算が大きい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。